

追加穂肥とこまめな水管理で品質確保

1 生育概況(コシヒカリ 7/30現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈: やや長い (108%)	茎数: やや少ない (91%)	葉数の進み: 並 (-0.1)	葉色: 並 (SPAD値 +0.4)
中山間地	草丈: 長い (116%)	茎数: やや多い (108%)	葉数の進み: 並 (+0.2)	葉色: やや濃い (SPAD値 +1.7)

- 葉色の淡いほ場が見受けられます。今後も高温が続くと予報されており、栄養凋落が心配されます。
○**コシヒカリの出穂期前で葉色が淡い(SPAD値で31以下)場合には、出穂期3日前に窒素成分で1kg/10a以内の穂肥を施用**しましょう。

2 調査結果 (普及センター、JA調査ほ)

(1)コシヒカリ

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	今熊 (浦川原)	14	5/10	89	94%	105%	324	株当 16.3	73%	88%	12.9	-1.1	-0.1	34.7	+5.4	+2.2	7/23出穂
	長走 (浦川原)	23	5/17	94	-	111%	345	株当 19.7	-	93%	12.8	-	-0.2	31.1	-	-1.4	7/26出穂
	平均			92	-	108%	335	18.0	-	91%	12.9	-	-0.1	32.9	-	+0.4	
	宮口 (牧)	57	5/24	92	107%	108%	397	株当 20.9	98%	107%	12.6	-1.3	-1.4	33.4	+1.1	+0.9	8/3頃出穂見込み 全量基肥肥料
中山間地	和田 (安塚)	133	5/15	103	111%	121%	367	株当 17.8	81%	99%	13.0	-0.8	0.0	34.1	+2.5	+1.6	7/25出穂
	大島 (大島)	152	5/10	107	108%	126%	404	株当 20.8	96%	109%	12.6	-1.2	-0.4	36.4	+9.4	+3.9	7/24出穂 全量基肥肥料
	菖蒲 (大島)	340	5/18	94	102%	111%	414	株当 20.1	109%	112%	13.0	-1.0	0.0	32.2	+2.5	-0.3	7/30出穂
	高尾 (牧)	340	5/18	92	111%	108%	419	株当 23.4	111%	113%	14.0	+0.1	+1.0	34.2	+1.9	+1.7	8/5頃出穂見込み 全量基肥肥料
	平均			99	108%	116%	401	20.5	98%	108%	13.2	-0.7	+0.2	34.2	+4.0	+1.7	

(2)こしいぶき

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)				
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	長走 (浦川原)	23	5/16	89	96%	111%	384	株当 20.1	112%	107%	12.8	-0.2	-0.2	36.1	-1.7	+1.1	7/19出穂

(3)つきあかり

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
中山間地	高尾 (牧)	285	5/16	105	105%	150%	462	株当 19.4	160%	144%	13.0	+0.6	0.0	42.8	+6.6	+2.8	7/22出穂 全量基肥肥料

3 今後の管理のポイント

- コシヒカリの出穂期は平年より7日程度早く、前年より8日程度早い見込みです。
○2回目の穂肥施用した場合でも、**コシヒカリの出穂期前で葉色が出穂期までに以下のめやすを下回る場合には、栄養凋落が懸念されることから、品質を維持するために追加穂肥を施用**してください。
(出穂期3日前の葉色がSPAD値で31以下、又は葉色板で4未満の場合、窒素成分で出穂期3日前に1.0kg/10a以内を施用)
○**全量基肥肥料を使用した場合でも葉色が低下し、出穂期の葉色がめやすを下回ると予想される場合には、追加穂肥を実施**しましょう。(コシヒカリのめやす: SPAD値で32~33、葉色板で4.4)
○**出穂の12日前頃から出穂・開花期頃は最も水が必要な時期です。用水を有効に活用するためにも、ほ場の水分状態に応じたこまめな水管理で稲体の活力低下や下葉の枯れ上がりを防いでください。**
(高温下での長期湛水は根腐れに注意)
○出穂後は飽水管理を継続し、**土が湿っていても溝や足跡に水が無い場合は、直ちにかん水**しましょう。
○異常高温・フェーン時は速やかに湛水し、稲体から急激な蒸散による障害を防止しましょう。
○例年同様カメムシ類が多く発生しています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底しましょう。
○暑い日が続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。